

戴帽式を終えて

准看護学科第 63 期生 中嶋 まゆみ

戴帽式を終えて、私達は、准看護師に向けての第一歩を歩み始めました。

63 期生の誓いの言葉である「看護の対象一人ひとりに誠実に寄り添い、愛溢れる看護を追求し、地域医療に貢献できる看護師を目指します」という言葉を胸に、戴帽式に向けて練習してきました。私達 63 期生はクラスメイトが少ないため、色々な不安がありました。練習では、お互いの意見がくい違い、本当にできるのか悩んだこともありました。それでも日々練習を重ねて、私達らしい戴帽式になりました。

戴帽式では、先輩方からキャンドルの灯をいただき、積み重ねてきた伝統の重みが、私達に受け継がれ、「自分たちの番になった」という不安な気持ちと嬉しさと胸がいっぱいになりました。

また、自分がどのような准看護師になりたいのか、これからどうあるべきなのか考えさせられたと共に、自分の夢である准看護師に少し近づくことができたという嬉しい思いと、ナースキャップをいただいた責任の重さを感じました。これから、「患者さんから頼られるように知識、技術、態度を身につけ、患者さんにとって近い存在である准看護師になる」という決意をしました。



戴帽式を終え、改めて、准看護師になる決意をすることができたのは、不安や辛さで心が折れそうになった時、先生方や友人、家族、職場の方々に支えていただいたからだと思います。

この感動した気持ちを忘れずに、多くの方々の期待に応えられるよう、初心を忘れず、自ら学び、自分の夢に向かって、成長し続けます。そして地域に貢献できる准看護師になれるように、頑張りたいと思います。